

いなべ市行政改革推進委員会 会議録

会議名	第8回いなべ市行政改革推進委員会
開催日時	平成26年11月17日(月) 10:00~11:00
開催場所	いなべ市役所員弁庁舎 市長室
出席者	【委員】5名(欠席:松井真理子、片山純裕) 丸山康人、堀 誠、松葉まち子、小林久里子、八田栄子 【市長】 日沖靖 【副市長】 吉野睦 【事務局】5名 (企画部長、政策課長、政策課3名)
会議次第	1. 会長あいさつ 2. 第2次いなべ市行政改革大綱の答申 3. 第2次いなべ市行政改革大綱の概要説明と意見交換会
配布資料	なし
公開、 非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人

議 事 概 要

【事務局】

ただいまから第8回行政改革推進委員会を開会します。では事項書に基づきまして、まず丸山会長よりあいさつをいただきたいと思います。

【会長】

2年にわたって7回の委員会を開かせていただく中で、皆さんから貴重なご意見をいただきましたものを、今回ようやく取りまとめることが出来ました。また後ほど概要の説明をさせていただきますが、数値目標を示して欲しいといったことや市民や子どもに優しいまちになって欲しいというようなことが盛り込まれております。また一方で今後の地方自治体の行く末も決して楽観視できるものではなく、財政的にも非常に逼迫した状況となることが予想されています。少子高齢化が進む中で、厳しい提案をさせていただいていると考えておりますので、本日も委員のみならず、一言ずつ意見をいただきますが、しっかり取り組んでいただきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

【事務局】

続いて、これまで7回にわたりご審議いただいて参りました第2次いなべ市行政改革大綱についての答申書を、委員を代表しまして会長より市長に授与していただきます。

(第2次いなべ市行政改革大綱の答申)

【事務局】

次に、市長より当該行政改革大綱の取り組みについて御礼のあいさつをさせていただきます。

### 【市長】

これまでに7回、今日を含めると8回にわたって議論いただき、みなさんに真剣なご提言をいただきました。本当にありがとうございます。行政ですと単年度主義であったり、何か事業をした際のそれがうまくいったのか、まずかったのかといった評価が出てこなかったりという点をよく指摘されます。そういったことも含めて真摯に受け止めて、この会議で委員のみなさまにいろいろな視点から見ていただいて、民間の常識、市民の目線そういったものを盛り込んでいただきました。こころより皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

### 【事務局】

次に、会長より第2次いなべ市行政改革大綱の答申書についての概要説明をしていただき、その後委員さんとの意見交換ということで会長より進行をお願いしたいと思います。

### 【会長】

それでは私の方から大綱の概要について説明します。大綱の3頁4頁のところが全体を表しています。行財政改革の背景と必要性というような形で説明しておりまして、多様な市民参加による行政サービスの提供が必要であるということを書かせていただいています。

2点目は市の方でこれまで進められてきた『いなべブランド』の確立ということです。これの意味するところとしてはいなべブランドを確立することを通じて行政サービスの質の改善を図っていこうということにあらうかと思えます。ただ単にサービスを提供するのではなくてこれをサービスの質の問題ととらえ、高品質の行政サービスを特色として全国にさらに発信をしていくところが狙いでありまして、これも着実に進めていただきたいということを感じております。

3点目に、新庁舎建設による効率的な行政運営の推進ということです。新庁舎を造るということは新たな転機になっていくということと、それから合併して10年経って一体性を持つという効果もあらうかと思えます。一方で既存のストック、公有財産等もたくさん残っているわけで、それをどう整理し統合していくかということも大きな課題であると考えています。総務省の方からも、こういったストックマネジメントについて方針が出ていることもあって、合併した自治体にとってこの点は非常に重要なポイントであらうと思えます。そしてまた、こういった点を実行していくにあたり、単に答申を書いただけでは実施は出来ませんので、むしろ市長の政治的リーダーシップといいますか、強い決意がないと地域の抵抗は非常に激しいものになると思われま。そういったことを考えると、新庁舎を建設するだけではなく、一方でストックのマネジメントの問題、整理統合の問題についても是非とも行っていただきたいと思っております。

4点目になります。合併特例措置の終了に対する対応ということ。これまで合併をして10年間の間、地方交付税については旧4町分をもらっているということでしたが、それが一本になります。合併特例債については延長されるということですが、予算規模そのものを圧縮しないとやっていけなくなるわけですから、これについてももしっかり取り組んでいただくということです。そのあたりをおろそかにすると、市民に対する行政サービスを非常に圧迫するということにもなりかねません。そうならないように早くから実行に移していただきたいと考えているところですのでどうぞよろしくをお願いします。

こういった4点の問題を中心として、あとは大綱の目指すべきもの、大綱で目標とする財政的な指標について、委員からの希望等もありましたが10億円の赤字解消という具体的な数字も盛り込ませていただいております。それから実施期間、集中改革プランの策定、進行管理の手法というように書いてあります。また、これまでの総括やそれから第1次行政改革での効果というようなことも挙げています。あとはご覧になっていただくと分かる通り、今の4点を柱として、項目を具体的な計画を立てる前段として書き込みをさせていただいておりますので、我々もこれも含めて具体的な数値目標等をしっかりと出していくための資料として整理をさせていただいております。以上を概要ということで考えていただければと思います。

### 【会長】

それでは、委員のみなさんから一言ずつ意見をいただきたいと思えます。

【委員】

長い間、どうもありがとうございました。いなべ市民約五万人の代表という気持ちを持ってこの行政改革委員会に参加させていただいたものですから、時には厳しい御提言を多々させていただいたかと思うのですが、本当に真摯にスピード感を持って対応していただきましてありがとうございました。この場をお借りして心より御礼申し上げたいと思っております。いなべブランドの真価ということはもちろんなのですが、これから少子高齢化で厳しい時代がやってくると思っております。そういったことを踏まえて、変革の思想をかなり盛り込ませていただいたのかなと思います。いなべのまちを日本一住みやすいまち、あるいはみなさんから住んでみたいと思っただけのような、幸せが実感できるまちを作り上げていく「まちづくり」が非常に重要であると思っておりますので、引き続きお願いしたいなと思っております。今日こうして答申させていただくのですが、やはり本番はこれからだと思っております。これをいかに実行してしっかりやりきっていくかということが必要だと思っております。そのなかでもスピード感を持ってやっていくということと、PDCAサイクル、いなべ市役所の場合ですとPDSサイクルでございますけれども、このCheck、Actionの部分にしっかり光をあてて、確実にやりきることが大切だと思っておりますので、今後ともご指導ご支援をよろしく申し上げます。

【委員】

一市民としてこの行政改革委員会に関わらせていただいてきましたが、私にとってはとても重いものでした。まずは、無事終わらせていただいたということで御礼申し上げます。それから、合併前の方がよかったと言う声も特に高齢の方などから耳にしますけれども、会長さんや委員のみなさまがおっしゃるように痛みを感じながらも実行していただくということは、大変難しいですが一番大切ではないかなと思います。10年間ほどで目標達成ということで計画を立てていただいておりますが、次の世代のために是非実行していただきたいと思っております。以前テレビで見かけたのですが、他の市町村では地元の特産品を活用した産業を興し、そこに若い人が働きに集まってくるという事例があるそうです。今現役の方にはもちろんがんばっていただかないといけないのですが、高齢だからといって家に引っ込まないで若い人を引っ張ってこられるようなことをしなければいけないなということを感じております。

【委員】

長い間ありがとうございました。いなべに生まれ、これからも一生いなべにお世話になるつもりなのですが、勤めていまして地域の中に入っていなかったと言うのが現状で何も知らなかったというのが今まででした。この会議に参加させていただいて、いなべのいろいろなことを教えていただきまして、関心もいままでよりずっと持つようになったというのが実情でございます。その中で今後のいなべを考えますと、資金面の健全化というところで市民の不安を考えますとこれからは健全にやっていただきたいということと、新庁舎も出来ることからみんなが集えるようなことや地元のものをもっと広げていくといったことを通して、老人も若い人もみなさんが住みやすいいなべになっていただきたいと思います。当然市民である我々も協力させていただきますし、そういった情報をさらに提供していただけるとありがたいなと思っております。本当にありがとうございました。

【委員】

ありがとうございました。この行政改革推進委員会に参加させていただいた当初は子どもがまだ小さく、子育てと共にこの会議にも参加させていただいたという感じで、自分も一市民として、母親として、成長しながら地域で育てていただいたところもあります。だんだんこの市の状態が変わってきたことは自分の生活の中で感じるものが多くあって、今はOBとなりましたが私が所属するボランティア組織も、支援センターもまだない時代から地域のお母さん同士で何か出来ないだろうかというところから生まれました。その後、だんだん市も子育てサービスなどが充実する中で、お母さんたちの意識も「無い中で、自分たちでやろう」というところから「市にやってもらってうれしいわ」というサービスを受ける側の方へ移り変わってきたのかなと思います。こ

れからは行政にやってもらうではなく、地域のみんなで行政の方々と協力しながらまちづくりをしていくという気持ちが大切ではないかと思います。お金がなくなってきた中でどうやって取り組んでいくかというところだと思いますので、大綱に沿いながら自分も自分のいる場所でごんばっていこうと思います。ありがとうございました。

**【会長】**

こうやってみなさんの意見を述べていただいた中で、最後に一言だけ私の方から述べさせていただきたいなと思います。これからの課題として、合併から10年が経つ中で旧4町の壁をどうやって無くしていくかというのも大きな課題なのだろうという気がしています。ひとつの方法が新庁舎建設だろうと思うのですが、それを契機にできるだけ権限等も集中し、そして適正に再配分するという考え方で整理をしていただき、市民の中でも一体感を持って行けるような施策をどんどんと打っていただけるといいと思います。行革もそういった方向で活用していただければよいと思いますのでよろしくお願いします。とてもいい機会をいただきましてありがとうございました。

**【事務局】**

委員のみなさまには2か年にわたり熱心にご審議いただきありがとうございました。さきほど委員さんが言われましたように、今後この答申をもとに行政改革をやりきっていくということで取り組んで参りたいと思いますのでよろしくお願いします。これからも状況に応じまして進捗管理等もお願いすることになろうかと思っておりますのでよろしくお願いします。

それでは以上をもちまして委員会を終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

※閉会

そ の 他 事 項